



聞 もん

第 69 号

編集発行
真宗大谷派 **本龍寺**
安城市和泉町
TEL.0566-92-0505

和泉の本龍寺

3月30日(土)「本堂落慶奉告法要」「蓮如上人500回御遠忌法要」
 3月31日(日)「宗祖親鸞聖人750回御遠忌 第一日中法要」「庭儀参道列=稚児行列」
 「宗祖親鸞聖人750回御遠忌 第二日中法要」「満座御礼の儀」

200 好天に恵まれた二日間、本堂内のイス席が溢れるほどのご参詣を頂きました。また、お稚児さん約2000人がご家族と行列を作つて本堂へお参り頂きました。ここにあらためて厚く御礼を申し上げます。

この御遠忌法要は、皆さんで参画して皆さんで創り上げる仏事を目指しておりました。4つの法要は、参詣者全員が「当日パンフレット」という勤行集を手にして声を合わせました。また、法要の他に慶讃イベントとして5つの参加型企画が盛り込まれました。丈山小学校児童による「三河万歳」、西三河

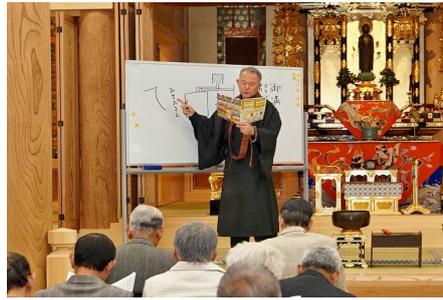
雅楽研究会による「祝舞」、京都の大谷大学OBが主体の「男声合唱団」、本龍寺合唱団を中心にした52名の拡大「御遠忌スペシャル合唱団」、そして約100名の女性陣が特訓を重ね、衣装まで揃えて熱演

した「しんらん音頭」。御遠忌全体についても、建設委員会が中心になって組織を作り、責任者ができ、それぞれの担当部署が連日協議を重ねました。稚児行列の時には最大200名以上のスタッフが見事に連携して動いておられました。そうした企画から運営までのほとんどすべてが、檀信徒の皆さんの力で遂行されました。法要当日、困ったことや分からないことが起こって「住職」と呼ばれることは一切ありませんでした。本堂建設事業において、本龍寺として最も大切にしたいのは、多くの方々に関わって頂き、少しずつでもそれぞれの役割・居場所を見つけて下さり、総体の意思として「私たちのお寺」を創って頂くことでした。御遠忌後の一ヶ月、いろんな会やグループがそれぞれお寺に集まって、広報委員制作の記録DVDを観ながら、ワイワイと盛り上がっていました。一人称の御遠忌が勤められましたこと、本堂にありがたく思っております。

住職 樋口祐慈



御遠忌点描 < 練習 & 事前準備編 >



法要には全員で声を合わせられるよう当日パンフレットという^{ごんぎょうしゅう}勤行集を作ってお勤め練習会を開催



本堂落慶記念曲を含めた^{さんか}讃歌発表のために各会混成部隊の御遠忌スペシャル合唱団を結成



コンセプト^{さんかく}参画する御遠忌のもと31年ぶりに復活のしんらん音頭は公式練習会3回 + ミニ練習会十数回



建設委員会を中心に^{せわかた どうぎょう}世話方・同行、^{どうすいかい}同推会役員、中高生など総勢約200名の御遠忌実行委員会打合せ風景



花材の育成管理から花立て水替えまですべてをこなす^{ふつか}仏華の会が御遠忌^{りっちょう}仏華も立派に立調

御遠忌点描 < 直前準備 & 会場設営編 >



餅つきから組上げまで大谷派の正式なお飾りを昔ながらの製法で今に伝承するお華束係



稚児コース最終点検



お稚児さん1,000人分の記念品の袋詰め作業



本堂落慶奉告法要は慶事なので参詣者におさがり・御齋代わりの五目御飯を320食お配りしました



テント設営



本堂廻り幕張り



看板・プラカード約50枚



境内南の衣装記念品交換会場



小学校体育館の受付化粧着付会場



本堂前の棧敷

御遠忌点描 〈 会場編 〉



みなみよま
南余間

ちゅうそんぜん しゆみもりけそく
中尊前の須弥盛華束

きたよま
北余間



参詣者全員に配布した12頁の当日パンフレット

法要前日の最終スタッフ会

御遠忌点描 30日 < 本堂落慶奉告法要編 >



法要30分前の鐘楼突きしょうろう



スタッフは朝7:30集合



各部署ごとの打合せ会



本堂では合唱団が歌の練習



お着物でお参りされる方々



遠方からもご参詣頂きました



最も格式高い七条袷しちじょうげさを着用



式支配の堀田護本宗寺ご住職しきしはい ほんしゅうじ



御本坊と親戚中心の参勤法中ごほんぼう ほんちゅう



今法要には各方面の来賓らいひんをご招待



9:00法要開始



出仕前の差定確認さじょう



真宗大谷派では入楽にゅうがくの法要が最上とされます



西三河雅楽研究会の皆さんがく



らつけい ひょうびやく
本堂落慶 表白



沓名昭二本堂建設委員長あいさつ



れつぎ
三河別院列座諸氏



御遠忌点描 < 慶讃イベント編① >



「皆で創り上げる御遠忌」として参加型の慶讃イベントを午前4企画、午後1企画盛り込みました



トップバッターは地元のじょうざん丈山小学校4年生と5年生10名による「みかわまんざい三河万歳」



りゅうてき
雅楽で龍笛を演奏する阿萬恵さんの「祝舞」

左手前が代表の伊勢淳さん



おおたに だんせい
大谷大学男声合唱団OBによる仏教讃歌演奏



さんか
前泊したりして京都からもお集まり下さいました



平田聖子先生〈写真前列〉作曲の本龍寺本堂落慶記念曲「弘誓のちからをかぶらずは」を含めて
本龍寺合唱団が3曲を熱唱しました 指揮は沓名光江さん、ピアノは秋田千夏さん

御遠忌点描 〈 蓮如上人500回御遠忌法要 〉



とうこう ぎ きょうどうし
副住職 登高座・経導師



とうこう ぎ ひょうびやく
住職 登高座・表白



13:00法要開始



しょうみょうかた かけやく
三河別院から声明方4名、掛役2名がお手伝い



ぎょうどうさんげ
行道散華

御遠忌点描 < 慶讃イベント編② >



最後は特訓を重ねた「しんらん音頭」 本龍寺の女性陣約100名が集結



御遠忌点描 31日 < 宗祖親鸞聖人750回御遠忌第一法要編 >



法要二日目は近隣地域12ヶ寺のそないほつちゆう組内法中がさんぎんご参勤

9:00法要開始



御遠忌点描 < 鍵役御到着編 >



御満座へのごまんざ御参修のためごさんしゆう京都・東本願寺からかぎやく鍵役のしんみょういんでん信明院殿がご来寺されました

御遠忌点描 < 稚児行列編 >



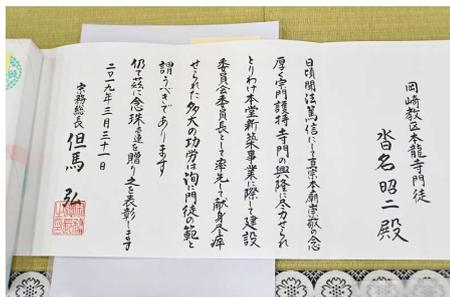




かぎやく しんみょういん殿と、御先導をお勤め頂く東本願寺堂衆の泉康夫二嬢



御遠忌点描 < 表彰・祝辞編 >



東本願寺宗務総長より建設委員長表彰と祝辞が送られました

代読者は安田雅三河別院輪番

御遠忌点描 < 宗祖親鸞聖人750回御遠忌第二法要編 >



いよいよ御満座



待機する役稚児さん



差定確認 13:30法要開始



役稚児さん23名は散華のに入った華籠を配ったり挿鞋を直したり行道に参加したりと儀式の中で重要な役割を担いました



しんみょういん でん かぎやく おんとうこう ざ きょうどうさんげ
信明院殿鍵役による御登高座、行道散華



御遠忌点描 〈 満座御礼之儀編 〉



おんどくさん
恩徳讃



建設委員長挨拶



かぎやく
鍵役御言葉

御遠忌点描 < 番外編 >



らんおん
鸞恩くんと久津名節子さん <母>



どうほう
同朋婦人会三役さん



沓名委員長、都築省三副委員長



しんしょうじ
信照寺役員さん



根育ての会



石川博技術顧問、委員長夫妻



りゅうさんじ
龍讃寺役員さん



しきしはい
兵藤希明監査、堀田式支配



そない
組内ご住職方



えしんにかい
恵信尼会 I



えしんにかい
恵信尼会 III



てらやく
寺役夫人



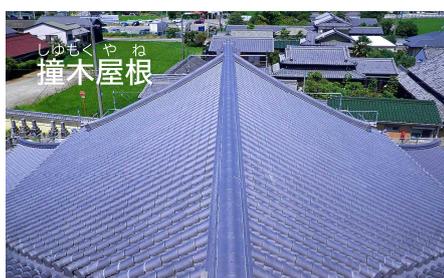
本堂建設委員会



どうぼう
第29代同朋婦人会



ろくろく
六鳥仕様のオリジナル前卓
まじく



しほもくやね
撞木屋根



建設工事点描



トラス構造の小屋組



総重量約600トンの一体基礎



げじんかまち
前・前々本堂大虹梁を外陣框に



たいま
大間床下は約1メートルの空気層



90ミリ角の面格子耐震補強壁



けん
幅2間の渡り廊下



マルオープン式二重ガラスサッシ



よま
深さ1.5メートルの余間床下

「あ」と「がき」の両方、皆さんの総力で、こんな立派で素敵な本堂を作つて頂きました。「これからがこれまでを決める」。この言葉を肝に銘じつつ、念仏の声がいとも本堂に満ちあふれるよう、精進して参ります。〈頼〉



ささもく うづくり 樹齢千年杉無垢板製 せんねんしょうじ 千年障子と じんだいすぎぞうがんぶちどり したて せんねんらんま 笹空両面浮造 千年欄間